

その時どうする？ ～障がい者への支援～

災害時には、妊婦・子ども・高齢者・外国人・障がいのある方などへの支援・配慮が必要です。そのような方を見かけましたら、支援が必要か積極的に声をかけましょう。

○障がいに関するシンボルマーク

図記号	意味
	ヘルプマーク 義足や人工関節を使用している方、内部障害や難病の方、または妊娠初期の方など、援助や配慮を必要としていることが外見からは分からない方々が、周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるために身に着けているマークです。
	障がい者のための国際シンボルマーク 障がいのある人々が利用できる建築物や公共輸送機関であることを表す、世界共通のマーク。車いす利用の方だけでなく、障がいのあるすべての方のためのマークです。
	盲人のための国際シンボルマーク 視覚障がい者の安全やバリアフリーを考慮した建物・設備・機器などに付けられている、世界共通のマークです。
	耳マーク 聞こえが不自由なことを表すと同時に、聞こえない人・聞こえにくい人への配慮を表すマークでもあります。
	オストメイトマーク 人工肛門・人工膀胱を造設している方（オストメイト）を示すシンボルマークです。
	ハートプラスマーク 「身体内部（心臓、呼吸機能、じん臓、膀胱・直腸、小腸、免疫機能等）に障がいがある人」を表すマークです。

○手足に障がいがある方の支援

ご本人の希望を聞きながら、腕を持つなどの介助を行います。

車いすを使われている場合は、急な発進や停止、方向転換は事故のもとになりますので、必ず声をかけてから介助します。車いすへの乗り降りや止まった際は必ずブレーキをかけます。車いすの乗り降りはフットレストを上げて行い、乗り終わったらフットレストに足を乗せて移動します。段差を超える場合には押す人の足元にあるバーを踏み、車いすの前輪を上げ、段差に乗せてから後輪を持ち上げ、進めます。段差を下るときは、後ろ向きに後輪からゆっくり降ろします。階段の上り下りの場合は、3人以上（安定性を考えるとできれば4人以上）の介助で行い、ご本人に恐怖感を与えないように、階段の下りが見えないよう配慮します。電動車いすは重いので、車いすとご本人は別々に移動します。



○視覚に障がいがある方の支援

災害が発生すると、町の様子が変わってしまい、単独で行動することが難しくなります。支援者から名前を名乗り、「お手伝いできることはありますか？」と声をかけ、まず手助けが必要か確認することが大切です。

次に、どのように支援、誘導すればいいか確認した上で、支援者の肩や肘等につかまってもらい（支援者が手や腕を引っ張らない）、ご本人に安全な側に立っていただき、支援者が半歩先をご本人の歩く速さに合わせて歩いて下さい。どこを歩いているのか、道路や周囲の危険箇所等を伝えながら誘導して下さい。

階段では手前で一旦止まり、「上り」「下り」を伝えます。階段が終わればもう一度止まり、階段が終わったことを伝えます。目の不自由な方から離れる時は、ご本人の立っている場所と、どの方向に何があるかを説明し、安心してつかまっていられるものがある場所や座れる場所で誘導を終了して下さい。

盲導犬をお連れの場合、盲導犬を引っ張ったり、触ったりしてはいけません。



○聴覚に障がいがある方の支援

的確な情報をお伝えすることが大切です。ご本人の希望に基づき、手話、筆談、身振り、読話（話し手の唇の形や動きを読み取って、言葉を理解する方法）、携帯電話のメール機能等のコミュニケーション手段から使えるものを選んで情報を伝えて下さい。



○知的障がいがある方の支援

まず近くに家族がいるか確認します。次に、動揺している気持ちを落ち着かせましょう。やさしく落ち着いた声で名前や連絡先を聞くとともに、「具体的に」「ゆっくりと」話して下さい。できるだけ肯定的な表現で伝え、「危ない」「怖い」というような言葉は使わないようにします。絵や図、メモ等も用いて、ご本人がどのように理解しているかを確かめながら話すことが大切です。移動する場合は、手を引くか、肩に軽く手をかけてゆっくりと誘導して下さい。触れられるのが苦手な方もいますので、その場合は、身振りで伝えてみて下さい。



○精神障がいがある方の支援

心理的に孤立し混乱されることがあります。不安を和らげるよう優しく接し、分かりやすい言葉で具体的に話しながら、避難誘導し、適切なケアができる状態にもっていくことが大切です。

○身体内部に障がいがある方の支援

外見では分かりませんが、災害時に医療行為を受けられなくなると生命の危険に直結する方がいます。医療機器を使用されている場合は、移動に時間も人手も必要になりますので、周囲の人の協力を得て移動するようにします。ご本人の症状の急変や体調の不良を訴える場合は、すぐに医療機関に連絡します。